



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

11月16日号（288号）

編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

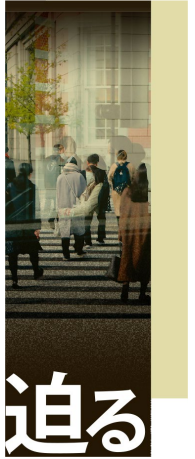
義足の元ジャンパー、鈴木徹さん

見据える「第二の人生」

16日(日)=1、3面



写真Ⅱは、2000年のシドニーパラ五輪から6大会連続出場、さらには日本記録の保持者でもあります。高校3年の免許取りたてのころ、乗用車を運転していたガードレールに衝突する大事故を起こしてしまいます。右足を切断し、打ち込んでいたハンドボールを断念します。リハビリの過程で出会ったのが、走り高跳びでした。元々跳躍力はあるほうで、程なく五輪出場可能な記録をたたき出します。その後約20年、第一線で競技をしましたが、常に念頭にあったのは「引退後の第二の人生」でした。パラ選手は引退後、何をすればいいかわからず困るケースも多いと言います。今は強化委員長として、競技だけでなく「社会とのつながり」を指導する鈴木さん。その視線の先には何があるのでしょうか。



迫る

元パラ走り高跳び選手で日本パラ陸連強化委員長を務める鈴木徹さん（45）

そこが聞きたい

ロシアの人権状況は今

16日(日)=くらしナビ面

ロシアのウクライナ侵攻は3年8カ月を経ても、終わりが見えません。戦争の影はロシア社会にも暗い影を投げかけています。2022年にノーベル平和賞を受賞した人権団体「メモリアル」の幹部を務めたロシアの人権活動家、スベトラナ・ガーンシキナ氏Ⅱ写真Ⅱに現状を聞きました。



論点

「父親の産後うつ」対策は

19日(水)Ⅱオピニオン面

男性が育児をするのが当たり前になりつつあるなか、父親の産後うつが注目の課題になっています。専門機関の調査によれば、精神的な不調のリスクがあると判定される割合は父親も母親もほぼ変わりません。どこにリスクがあり、何が潜んでいるのか、あるべき支援とは何か。この問題について全国初の専門外来を立ち上げた信州大学医学部付属病院（長野県松本市）の村上寛医師Ⅱ写真Ⅱにインタビューしました。

特集ワイド

「セクハラ」 40年前の流行語の背景

18日(火)=タ刊2面



1980年代、駅のホームで酔ってしつこく絡んだ男性を女性が押しのけ、その勢いで男性が線路に転落して死亡する事件がありました。女性には逮捕されましたが、その後の刑事裁判で無罪判決が確定。まだセクシユアルハラスメントの概念が知られていない時代の出来事です。あれから40年。日本はセクハラにどう向き合ってきたのでしょうか。被害だった女性を支援し、人権侵害の実態を伝えてきた丹羽雅代さんに聞きました。